

けんぷファー?!  
⑤





## 【登場人物紹介】



こぼ（青）：♀・主人公・銃使い・B型・バイト先の女の子、あやののことを気に掛けている。普段は口数が少なくクールだが、変身後は逆転しよくしゃべるようになる、そしてぱっちり目になる。男には興味がないらしいが最近どうも高橋の熱意に押されかけていて、本人的にはやれやれという感じ。（慣れってやつですかね？）（笑）バイト先に移動してきた、ともみんに心がうたれ気味に...！

髪の色：変身前は黒。

変身後は黒に2本白いメッシュが入る。

パートナーアニマル：ケロロ



あい（青）：♀・こばの親友・魔法使い・B型・なんか小動物系の癒し系っぽい人。おつちよこちよいで鈍く、争い事はきらい。思いやりがあり優しいがオカルト傾向があり、ケンに女装をさせてみたいというひそかな願望を抱いている。ケンに好意を持たれているということにあまり気が付いていない。変身し、アイになると性格が活気的な男っぽくなり、体力も頭の回転も良くなる。「俺」口調になる。後者は高橋をつぶしたいと思っている。

髪の色：変身前:黒

変身後:オレンジ（左）

パートナーアニマル：キイロイトリ

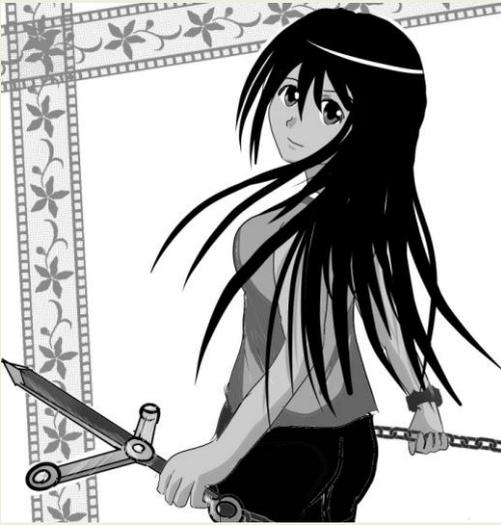


あやの (赤) : ♀・味方・魔法使い・B型・一人称は「僕」。こぼのバイト先の1つ年下の女の子・とてもわがままで自分勝手なところが激しい・人を信じなかったが、こぼとあいの想いの強さに心を動かされた。ぬいぐるみよりも「Nじま」と現実世界でいわれている声優を愛しているが、この物語とはなんの関係もありません (笑) こぼにたてつくともみんなのことが大嫌いらしく、会いたくないのでバイトを最近よく休んでいる。自称ニートの生活をしている。

髪の色 : 変身前は黒。

変身後は赤になる。

パートナーアニマル : なし



ケン（赤）：♂・味方・鎖付き剣使い・大学の男友達・O型・高橋の相棒・  
すごいマイペースで少し鈍いところがある。物語中のやられ役？（笑）  
あいちゃんに気持ちを伝えようと頑張っているが、よくアイに邪魔されて  
終わる。そしてアイにいじられているが本人は特に動じていない。変身後  
は美しいおねえさんになり（♀）、一人称も「私」になる。

髪の色：変身前は黒。

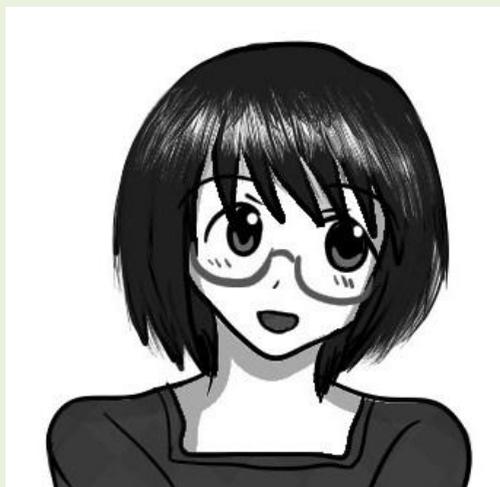
変身後も黒だがロングになる。女体化（左）

パートナーアニマル：クロ（ニャンパイア）



高橋：♂・日本刀のような剣使い・大学の男友達、通称（自称？）部長さん・AB型・ケンの相棒・こばに無視され可哀想な役回しにされているがくじけない。それでもこばにつっかかるが、気持ちに気付いてくれなく空振りしている。でも最近はなんとなくいい感じになった！と自分に自己暗示をかけている。実はモデレーターであり、あやのとは過去に会っていた。アイのことがうざいらしい。

髪の色：黒 たまに茶色



ともみん：♀・機関銃使い・こぼのバイト先の先輩。名字は高橋だが、部長さんとはまったくの無関係である。ちなみにB型。

こぼのことが好きな、百合傾向をお持ちのようで、あやのとは馬が合わない。赤ふちのメガネ。(隠れアニオタ)

結構おっとり・天然のように見えるが、変身後は嘘のようにキャラ崩壊するのだ！！

趣味は変なものが好きで、ちょっと変わった人である。

髪の色：黒

変身後は白になる。



あい「……うう…だつてえ…」

ケン「実は…僕もお…。すみません、強がってました…（笑）もうだめ～…」

ベシヤッ！←ケンがテーブルにひれ伏した音

高橋「おまえもか！（笑）！？」

劇場版、ケンぷファー？！

『季節外れの肝試し！？』

……奈良を通りこして、一同は京都駅に到着！

あい「着いたー！」

こば「……そうだね。」

あやの「うわおおおおーい！見て！街が碁盤の目のようなかんじ！」

ケン「ほんとだー！どこ行っても同じふうな景色にしか見えない…！」

高橋「う…眠い…」（←ババ抜き大戦後、すぐ寝ちゃった人。今まで寝てた）  
（笑）

あやの「ねえ！どこ行く！？」

高橋「はあ？どこって…別荘だろ？バス乗ないと…」

あやの「おい！せっかく来たのに観光しないと損だろ！？まずは…」

あやのが、観光パンフレットを広げる。

ケン「へ～…なんか、お寺ばかりだね…！」

高橋「寺なんて見てもつまないだろー…？」

あやの「…ホントに寺ばっかだな…」

あい「ここの、商店街みたいな通りはどうか？」

と言い、ショッピング街を指差した！

ケン「うん！いいね！僕洋服とか見たいな～！」

高橋「なんかないかな～美味しい店とか…とりあえず行ってみるか！」

こば「…そうだね（笑）」

ともみん「ちゃおー！」

なんか横断歩道の向こうで、「ちゃおー！」とかにこやかに手を大きく振りながら、こっちに走ってくるともみんがいた！

こば「と！ともみんさん…！（///）」

あやの「げ…。来たよ…（くそが！）」

高橋「ともみんさん…！いつもありがとうございます！別荘…！」

ともみん「いいのいいの！どうせ長年使ってないし！それより、狭いかもしれないけどゆっくりしてってね！」

こば「はっ…はい！（///）」

あやのは、ふくれっ面でももみんを睨んでる。

ケン「あの～！ともみんさんは一緒にこないんですか？」

あやの「(はああ？！いいし！気使うな！こんなやつに！！)」

ともみん「私は…ごめんね～？いろいろ用があるのよー。だから、みんな楽しんでね？」

ともみん心の声

(へっ…どうせ私はオバサンデスヨ…！！一人だけヤングなとこに入れるかっつーの！くっそー！！いいな！わけえとこんちくしょー！！)

ともみんは、「アディオース！」とか言いながら碁盤の目の道路に消えてった。

あやの「(はあ…よかった。)」

こば「あやの様…どうかした？ホッとしてるね…？」

あやの「別に… (///)」

♪今日の運勢は～誰が決めてるの～見えない神様～さいころを投げるよ～  
♪

——そして

一同は買い物を終えて…！バスに乗ることに！

高橋「うー…重お…」

こばの買ったもの（というか京都のゲーセンで取った景品）を入れた紙袋を両手で、計2つ、持ってバスに乗り込む。

こば「ご、ごめんね？持ってもらっちゃって…」

高橋「なんのこれしき！平気平気～！」

あやの「…」 ←見てる

あい「ケンちゃん、それ美味しそう…！」

ケン「ん～？（笑）抹茶ソフトクリームだって！そこで買ったんだ～（笑）

少し食べる？」

あい「！いいの！？♪」

ケン「僕の食べかけでよければ…」

照れつつソフトクリームを手渡す。

あい「…！あー…！冷たくて美味しい～…」（←ほわーんとした雰囲気醸し出してる人）

あやの「……」 ←見てる

バスは一番後ろの5人席に座った！

向かって左窓側から、こば、高橋、真ん中があやの、ケン、右窓側があい。

あやの「……」

高橋「へ～！あ！迷い猫オーバーランじゃん！これ！」

こば「うん…！高橋くんそれ、好きでしょ？こばも好きだよ…」

ちらっと上目遣いで高橋を見つめる。

高橋「っ…！お、おう…そっか…うん！（やべえ！くそやべえ！…どうするオレ！？ドキドキしちゃ～う～わ～♪）」←歌

こば「でも…なんか、狭いね…？」

高橋「ぎゅうぎゅうだからかな…？（オレは構わないけど…！こばと密着！左側ののじあやのはおいといて…）」

こば「ねえ…高橋くん…見て…？」

高橋「んお…？」

こばの指さす方には、あいとケン…！

あい「……z z」←窓にうなだれ熟睡

ケン「…Zzz…」←イスにもたれかかって爆睡

高橋「…寝てるな（笑）」

こば「うん…」

高橋の服の袖をきゅっと掴む。

高橋「っおおう！（ドキーン！だぞーこばー！）」

こば「しー…」

高橋「…！こ…」

（こばが！オレの目を見てる！超見てる！超見てる！！超～～～見てる！！！）

高橋「な…に…？どう…しました…か…？」

こば「…高橋くん…。あやの様は…？」

高橋「のじあやこが何？…ん？」

あやのの顔を覗き込む高橋。

あやの「……」←首だけ下を向いて目をとじてる

高橋「……。」←見てる

あやの「……」←まだ目とじてる

高橋「……のじまー」(ボソツ)

あやの「… (ピクっ)」←まだ目とじてる

高橋「次は一、のじまー…のじま駅～。のじま駅～。」(ヒソヒソ)

あやの「……」←ちょっと眉がびくっとした

こば「…ねえ。寝てる…？」

高橋「……ふっ (笑) ああ、寝てる寝てる！ (笑)」

こば「…そっか…」

こばが高橋の手をちょっと触る。

高橋「！！こば……ちやああ…ん！いけません！そんな…！」

こば「なにが…？」

高橋「いけません！あたし！…いやあん…」

こば「…高橋くん… (だって…なかなかこんなチャンス…ないのに…)」

高橋「…だめ…！」

あやの「……」(←可愛い貧乏ゆすり開始)

こば「… (どうして？…いつもの高橋くんなら、そっちから攻めてくるのに…)」

高橋「！ご…ごめん…その…イヤなんじゃなくて…その…なんていうか…」

こば「…あ…っ」

高橋がこばの両肩に手を置きながら話す。

高橋「ここは、公共の場だから…」

こば「………… (顔赤)」

高橋「だから…2人きりになる機会があったら…な？」

こば「……高橋くん…」

きゅっと肩にのせてる手を握る。

(こばの青いバングルが輝く)

高橋「…！」

こば「…旅行とかだと…高橋くんとの夜を…思い出す…」

高橋「っ！（//////）」

こば「…あの日の夜…嬉しかったよ…高橋くんを感じて…」

高橋「そ…そんな話ここで…！っ…（///）」

あやの「……」←ちょっとヒートアップした貧乏ゆすり開始

こば「……まだ…覚えてるよ…（//////）長い…夜だったね……」

高橋「も…もういいだろお…！？（//////）」

こば「……今回も、一緒に部屋にしようね？」

高橋「で、でも…オレ、男だからさ…。そこんこはちゃんと…（///）」

こば「なんで？…高橋くん…いや…？」

高橋「っううう…（可愛っ…！）いやじゃない！いやじゃないよ…？でも…でも…。またあんなことしそうで…恐いんだ…。こばを…傷つけたんじゃないかって…ずっと思ってるし…」

こば「…そんなことないよ…！高橋くん…」

あやの「っ…！」

ドグオ！←あやのが高橋の足を思い切り踏んだ音！

高橋「っぴぎゃう！？」

こば「！？」

高橋「あ…い…たたた…（くそー！のじあやのおおおお！！）」

あやの「…8回くらいしね…高橋…」ぼそっ

高橋「（！やっぱ起きてたか！こんの一…！）」

あやの「…こば様に…なにをした…」

こば「あやの様！？起きたの？！」

あやの「あ？…ああ…高橋がごちゃごちゃうっさいから蹴ってやった。正しくは踏んでやった」

こば「ご…！ごめんね?!寝てる邪魔しちゃって…！」

あやの「いいって、気にすんな」

高橋「…なーんて！そんなことないよ！な！こば!？」

ポンポンとこぼの肩を叩く。

こぼ「え?! えっ…?!」

高橋「オレがこぼに手出すわけないって…! 出せる勇気ないもん…恐くて…」

こぼ「…!? え?」

あやの「なんだ…驚いたぞ。そっか。ならいい。」

高橋「あはは—もう! やだわ! あやのんのっち!」

あやの「おい。へんなあだ名つけるな」

こぼ「… (高橋くん…でもあれ…あの日の夜…)」

高橋「お! おい! もう着くぞ!? 2人起こさないと! おーい! ケン! 猫女!」

ケン「……んー…」

あい「……」

高橋「起きろー! 朝だー! ラジオ体操がまってるぞー!」

ケン「んー…行かないー…いきたくない…」

あい「…めんどくさ……い…」

高橋「起きなさい! 駄目よ! スポーツしなさい! 漫画家の弱点よっ! ?」

ケン「ん…なこと…言っても…めんどうだし…」

あい「……そう…そう……」

高橋「会話すんな! (笑) 寝てるのに!! (笑)」

ケン「……気が向いたらねー…Zzz…」

あい「……同じく…」

高橋「お前ら〜! 一生気が向かないだろ! それじゃ!? (笑)」

ケン「そんなことないよー……って…ここどこ? (笑)」

高橋「バスだ! (笑)」

ケン「…まだ…着かないよねえ? (笑) おやす……」

高橋「寝るなー! (笑) 起きろー! もう着いた!」

ケン「えっ!? うっそ?! (笑) あいちゃんっ!」

あい「……んう……うるさいなあー…」

ケン「起きなさい！もう着いたよ！早くしないと！」

あい「！？え！！うそおお！？（笑）」

ケン「ほら早くしないと！運転手さん泣いちゃうよ！（笑）」

あい「なかねー！（笑）」←ツッコミ（笑）

んで！バスを降りてちょっと歩くと、ともみんの別荘2号機があらわれた！

昭和初期の感じが漂う木造の2階建て。でもなんか、木が雨風にさらされ、ちょっとすつとけた感じ。2階の窓ガラスの下の方がボールを投げ込まれたのだろうか割れている。

あい「ふおお…」

高橋「でかい…！」

こぼ「さすがともみん…」

あやの「でもぼろくね？あいつの別荘だっるのが気にいらぬけど…」

ケン「んじゃ！入ろう！…ん？」

ケンが別荘の建物の向こう側の山に見える赤い鳥居を見つけた。

バサバサバサ…！と2、3匹のカラスが飛ぶ。

高橋「う…あんなところに鳥居？…気味悪いな…」

こぼ「なんだろうね？」（←ちなみにまだ変身中）

あやの「薄気味悪いな…。ホントにここ大丈夫なのか…？」

ケン「た…多分！（笑）」

あい「……でそう…」

高橋「！？（涙）ちょ！ちょっと！やっ…やめて猫女！？変な冗談は！？」

あやの「…まじか？」

こぼ「ええっ…！？うそでしょ…？（汗）」

あい「……いや…なんか、感じない？」

こぼ「か、感じないよ…」

あやの「…あいちゃんって靈感あるのか…?!」

あい「…というか…気配?は感じる…。たまに見える時もある…っていうか…。それってある、のか…な…?」

ケン「…!あい先生!いざというときは…!」

あい「うん…!わかってる!」

高橋「も…も…もお…やめて…!?ほんとやめて?!オレだめなの…こういうの! (涙) 怖いじゃないかあああ…!!」

ケン「僕も怖いけど…、なんかわくわくするよね…!?!」

高橋「すっ…するかあああああー!?! (涙目)」

あやの「まあ、こんなとこいつまでも突っ立ってないで入ろ?」

ギ…ギッ…ガタンガタン…

あやのがドアを開けようと、木の引き戸を動かす…!

あやの「っ…く!かた…っ…いぞ…っ!これ…!!」

ケン「うあ!?!ほんとだ…!かたっ…!」

ケンも応戦するが、なかなか中に入れない。

ガタンッ!ガタンッ…!

高橋「…おい…本気でここ、泊まるの…?やめない?ホテルとかでも良くない?」

こば「そ…そうだよね…。やばくない…?大丈夫かなあ…?」

あい「……うーん…」

ケン「んっ!ぐ…っ…くううう…うううおおお…!!」

ガタンガタンガタン!ガタガタガタガタガタガタッ!!

あやの「んぎ…ぐ…うううあああああっ…ごあああーっ!」

あい「…なんかあったら変身するんだ!対決!ケンぷファー対幽霊!…とか~ (笑)」

こば「無理無理無理無理だよ!?! (涙)」

高橋「おおおおお…オレも…いやあああああ！？（泣）」

ケン「っ！ぐ…っ…ぬうううあああ……！！！！」

あやの「ほんぎぐうううおおおああああああつ…！くそー！あけーあけっ！」

ケン「ひーらけーっ！ごまー！！（叫）」

あやの「ばかかお前はー！！そういうときはだな…！いやな奴の悪口言うんだ！…高橋のばかやろー！あんぼんたぬき！！」

高橋「ってオレかよ！こんのー…！」

高橋も参戦！

ガッ！と戸に手をかける！

高橋「あやののばかー！ばかばかばかー！！」

あやの「ばかはお前だー！高橋ー！割れろー！お前の頭がわーれろー！！」

ガタタタタタっ…！！

高橋「くそー！のじまシールでも食ってろ！？」

あやの「切実にくれええ……！」

ガタタタタッ！

ケン「サンデースプラッシュあたーっく！！（叫）」←謎

こぼ「こぼたちも応戦する…？本気で開かないみたいだし…」

あい「うん…そうだね！」

あいが、戸に手をかける！

はたから見ると、1つの戸に4人で手をかけ、ものすごく変な光景に見える…（笑）

高橋「頼むー！」

ケン「あいちゃーん！あいちゃん、か弱いからなあ…！（笑）僕があいちゃんのぶんも頑張る！」

あい「わ…私もやる…！ぬうううう……っく！」

あやの「どーっせー！どーっせー！！」

高橋「プリィキュウア…！（プリキュア）…アクア…ストルウウイイ  
ンム！！（ストリーム）」

ケン「アバカム！アバカーム！！く…アバカムウツ！この…扉には…き  
か…ない…のかああ…！」（←呪文）

こば「あ。」

こばが、入口の戸の横に引っかかっている、よくあるセトモノのタヌキの置  
物（わらみみたいな傘頭にかぶってひょうたんもってるやつね！）を見つ  
けた。

まあだいたい120センチくらいの！

こば「…よっ」

ごとっ←タヌキの置物をどかした音

高橋「おわっ！」

あやの「うあっ！？」

ケン「おおおう！？」

あい「ひあうっ！？」

バーーン！と戸が開き！4人はドオオオシャー！と派手にドミノ倒しみた  
いに倒れた！

高橋「いっ……つー…乗るなー！皆オレの上に乗るなー！（泣）」

あやの「やった！開いたぞ！おい！高倉！どこ触ってんだ…！腰！腰に手  
…（///）」

ケン「…よ…し…僕の呪文が…効いた…ぞ…」←効いてないし聞いてない  
（笑）

あい「び…びっくりしたあ…急に開いた！♪」

こば「…これが、入口塞いでた」←もう変身といた  
ゴトッとタヌキの置物を置く。

高橋「ええええええええええええええええええっ！？（笑）ないわー♪  
…そりゃないわぁ～（笑）」

ケン「…なんと！…それで開かなかったのか……」ガクッ…  
あやの「もうちょっと確かめてからやるべきだったな…」  
あい「もう遅いけどね…（笑）」

そんで！

1回はキッチンと、小さいベランダ付きの畳の和式部屋1つにトイレ、風呂。

2階は、部屋2つしかなかった！外から見えた窓ガラスの割れた部屋と、奥の部屋は雨戸が閉め切られた部屋。

あい「うわ～…なんか、カビくさくない？」

ケン「ホントだ～。長年使ってないって言ってたしね！」

高橋「おっ！テレビは一つケン！…ってあれ？これスイッチどこよ？（笑）」

こば「…ないの？」

なんか、昭和のダイヤル式テレビが！

しかもアンテナつき！（へし折られたように曲がってる…）

こば「…つくの？このテレビ…」

高橋「うーん…わからん！つかりモコンすらねえ！！」

あやの「…なあ、ここ…！すごいホコリが…！けほっ…」

タンスの上からほこりが舞う！

ケン「思ったんだけど…エアコン…なくない？（笑）」

あい「そういえば……っ！玄関の鍵もないよ！？」

ケン「うわ～…うそー…しんじやう…（笑）そしてパソコンもない……」

こば「君たち、エアコンないとやばくて崩壊するでしょ？（笑）」

あい「しぬう…暑い～…」

ケン「だめ…溶けちゃう…かも…」

あいとケンが畳の部屋で、窓を全開にしてくたばり開始した（笑）

高橋「くそ！つけ！このっ！テレビー！！」

バンっバンっ！←テレビを叩いてる音

あやの「おい！冷蔵庫あったぞ！電気きてないけど…」

ケン「えー！？電気きてないー！？」（←和室の部屋から叫んでる）

あい「ほぎゃー！ここケータイが圏外になってるううううう！！！！」

ドシャッ！←あいが倒れこんだ音

スシャー！←携帯が畳の上をスライディングした音（笑）

あやの「あのさー。僕が晩御飯買ってくるから、よろしくなー」

高橋「おうよ！」

バシンバシン！（まだテレビと格闘中）

こば「…」

こばは立ちあがると、1人、2階への階段をのぼる。

一段一段あがるごとに、ギッ…ギッ…と鈍い音がする。

こば「…」

あい「なにしてるの？」

こば「うわっ！？」（びくっ！）

あい「あうっ！？」（びくっ！）

こば「なんだ…あいちゃんか…脅かさないでよ…」

あい「ご…ごめ〜ん…（笑）で…どうかしたの？こんなとこで？」

こば「いや…なんでもないよ。暇だし…ちょっと…」

あい「下見ってやつ？（笑）」

こば「…まあそんなとこ」

こばは振り向いて、あいを突っ切って階段を降りようとした。

あい「ねえ！どんな感じの部屋だった？」

こば「……まだ見てないし（笑）」

あい「なんだ！そっか！（笑）ねえ！見よ?!」

こば「ああ…」

あい「で、えらんじゃお!?♪」

こば「そうだね（笑）」

——ひとつめの部屋（窓ガラス割れてる部屋）

あい「…ほおおう……」

こば「…どう…?」

あい「が、部屋に入ってすぐの左側の押し入れに目を向ける。

こば「…な、なに…!?」

あい「……なんか、感じない…?」

こば「えっ!?…なにかって…なに…!?」

あい「…この部屋…。あの押し入れの中から…」

こば「え?! え…っ! やばくない…? 大丈夫なの?…」

あい「…わかんない…」

スッ…と2つ目の雨戸のしまってる部屋に入る。中は真っ暗だ。

さっきの部屋同様、小さいかさの被った電球はある。けど、紐を引っ張っても明かりはつかない。

あい「……。」

こば「……ねえ…やっぱりやめようよ…こんなとこ泊まるの…」

あい「うん…やめたい…けどお…。こっちの部屋は、まだ、ましかな…」

部屋の奥にある、三面鏡と、花の絵が描かれた掛け軸が気になるが…。

こば「ねえ…! どの部屋にする……?」

あい「…そうだねえ…どうしようかな…。1階の和室はなんともなさそうだけど…」

こば「あ、あのさ…! じゃあさ…うちら1階で、高橋さんとケンちゃんを

隣の押し入れの部屋に押し込んで、ここをあやの様で良くない！？（焦）」  
あい「え…？（笑）」  
こば「だ…だって！怖いよ…！？」  
あい「うちらだけ…安全地帯…？（笑）」  
こば「そうだよ…。だってあの3人は知らないわけだし?!」  
あい「…ふむ…確かに…。」  
こば「ね？そうしょ!？」  
あい「……うーん……」  
こば「あいちゃんは、こばとじゃやなの…？」  
あい「い!…いや…じゃ…ないけどさ…」  
こば「ね?ね?そうしょ?!」  
あい「でもお…ケンちゃん達に悪いよ…?あやの氏にも…」  
こば「じゃあ…あいちゃんはここ、平気なの!？」  
あい「っ…!それは…」  
こば「ケンちゃんは大丈夫じゃない!?幽霊とかわくわくするって言うてるし!」  
あい「いや…それとこれとは違う…ない?（笑）」  
こば「それに!高橋くんとケンちゃんと BL が見れるかもしれないよ?!  
あいちゃんの好きな!」  
あい「ああ…まあ…BL は好きだけどもさあ…。ケ〜ンちゃんは〜…そーんなことしないんじゃないかなー?（笑）」  
こば「あ!あやの様も1人が好きだしさ!？」  
あい「ああ…うーん…（笑）」  
こば「それに…こば、久しぶりにあいちゃんと寝たいな…？」  
あい「え!?(笑) …あ…あー…うーん…（笑）」  
こば「あいちゃんのこと…好きだし…!あいちゃんとならなにながあっても…どんなことしてもいいから…!…だ…抱き………とか……百合…みたい……な……」(ボソッ…)  
あい「……!ごめんね…?」

こば「…！」

あい「…私は、こばが好きだよ？でも…。」

こば「…でも…？」

あい「……そういうことは…出来ないんだ。いくら、おふぎけでも、遊びでも、こばでも…ごめんね？」

こば「…そ、それでもいいから…！！」

あい「……大事な人が、いるから……」

こば「……大事な人…」

あい「…うん…！」

こば「……ケンちゃん…？」

あい「……！」

こば「…そっか…そうなんだね…？」

あい「…… (///)」コクッ。

こば「やっぱりね…！そんな気がしてたから。」

あい「…！わ…わかっちゃった…?!」

こば「こばは認めてるから…！」

あい「そ…そっか… (///)」

こば「…うん」

あい「!!？」

ぎゅっ！と腕を掴まれた！

こば「…アイちゃんと、高橋くんが前に研究室で、こばのことめぐってバトったことあったでしょ…？」

あい「え…?! うっ…うん…?!」

こば「その気持ち……わかった気がする。今。すごく。」

あい「……そ…そう??？」

こば「行こ？そろそろ、下。」

あい「…うんっ！♪」

———すっかり夜も更けて…！

あやのが酢豚を買ってきた！！

高橋「うお…オレの料理もいいけどこれもまた美味しいな～…！」

あやの「でしょ？どンドン食べる！（笑）」

ケン「うん！美味しいよ！…あ！こばちゃん！それとって？」

こば「……」

スピュ！とつまようじのケースをスライドさせる！

ケン「ありがとー！」

こば「……ねえ～、高橋くん…♪」

高橋「ん？なにー？」

こば「今夜さぁ…」

高橋「んっ！けほっ…こほっ?!」←むせた（笑）

こば「…こば、あいちゃんと同じ部屋がイインだけど。」

高橋「なっ！ええっ！？けほっ！（オレと一緒に朝行ってなかったっけ！？こば！？）」

ケン「なにい…！？（あいちゃんと一緒にのんびりするはずだった僕のプランが！？）」

あい「ケンちゃん…（笑）」

ケン「あ！あいちゃんっ！？…さぁ！あいちゃんはどうするかー！（笑）（プラン、プラン♪）」

あい「……ごめんね…？（笑）」

ケン「っ！？こおおおおあぁ……！?!?!?!?（←ショックの叫び）」

あやの「ふーん？（笑）ま、僕も安心だけどさ。とくにこば様と高橋が。あ、僕は1人でいいからさ。」

こば・あい「(っし!）」←心の会話（笑）

高橋「ケ…ン……と…一夜…か…よ…せっかくのお泊りなのに………」

ケン「……食欲失せた……ショック……まさかのあいちゃんが…ぐすっ…」

高橋「……大丈夫…いざって時は…ケンが変身して女になれるから…オレを慰めてくれるはずよ…（笑）」

ケン「どういう意味！？（笑）」ガタっ！

高橋「あ、復活した…（笑）」

——んで！（部屋決め）

こば「高橋さんとケンちゃんはそっち」

ケン「もう決められてる！？（笑）」

高橋「おお…ってここ、窓ガラス割れてる部屋じゃん…」

こば「で！あやの様はそっち！」

あやの「お！悪いね！鏡つきですよー！いいだろー！しかも三面鏡〜！」

高橋「別にどうでもいいわ！（笑）」

ケン「あ、鏡とかって気をつけた方がいいよ？もしかしたら良くないものが映りこむ可能性あるからね〜。水を差すようで悪いけど。」

こば「（ちっ！よけいなことを…!）」いらいら…！

あい「こ…こば！？（笑）」

あやの「んなもん映るわけないだろー！脅かすな！高倉！」

ケン「なんかあったら言ってね？あやのちゃん。」

あやの「ないって！ないない！心配すんなよ！」

高橋「ケン〜押し入れにふとんあった！カビ臭いけど！（笑）」

ケン「布団かぁ（笑）まあいいや！布団好きだし♪」

高橋「よっ…！ん…？なんだこれ…？」

ケン「どうかした？」

高橋が押し入れのふすまの裏に御札を見つけた。

高橋「…気味悪いんだけど…」

ケン「…おおう…」

高橋が御札に指をひっかける。

あい「…！それ、はがしちゃだめ！」

高橋「なにっ！？」（びくっ）

あい「…高橋くん…気をつけて…」（ボソッ…）

高橋「え…！？えっ？！ちょっと…ま…！？（←泣きそう）」

ケン「…あいちゃん…！」

あい「…ケンちゃん…あのね…耳かして？」

あいとケンがなにやらヒソヒソ話をしてる…！

ケン「…？…な！（笑）僕に言えと…！？」

あい「…うっ…うん…（笑）いぎね。高橋くんじゃ立てなくなるか気絶するだろうから…」

ケン「僕はそういうキャラじゃない…とか言ってらんないんだよね？（笑）」

あい「そうとも♪（笑）」

こば「…？」

あやの「おーい！男ども！覗くなよ！着替えるからな！」

ピシャッ！と戸を閉める！

あやの「ふっふっふ！ここから製品版にて！」

こば「何か言った？w」

あい「え？w w w w なにも？w w w w」

こば「気のせい？w w w w」

あい「あやのんのが、製品版がどうのこうのって言ってたw w w」

こば「ああw w そうw w」

あい「ということはここまでのようだな……」←ノッてきた人（笑）

こば「じゃ、よろしくどーぞ？w w w」

ケン「このあと！なんと幽霊が！？」

高橋「チャンネルはそのままごわす！」←